

本資料は、現時点での事務局による項目案を、富津市一般廃棄物処理施設整備基本構想骨子（案）として取りまとめたものです。今後審議会で調整を図り、施設整備基本構想素案として策定していきます。

富津市一般廃棄物処理施設整備基本構想 骨子（案）

第 1 章 前提条件の整理

<p>①施設整備の理念及び基本方針の整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境センターは竣工から 46 年が経過し、建屋等の老朽化も著しく、また、排出されるごみも多種にわたり、ごみの性状も変化するなど、現状の処理施設では対応できないものがあるなど、処理施設の更新が必要とされて、次期廃棄物処理施設の整備は喫緊の課題となっている。 ●不燃・粗大ごみの処理については、可燃性の粗大ごみや残渣等の処理施設を整備し、かつ、資源ごみ等も含めた住民の直接搬入ごみの受入れ拠点となる施設の整備が重要となる。 ●富津市みらい構想では、新富地区は、様々なリサイクル技術を持った企業が進出しており、同地区の特性を生かした施策や事業に取り組むこととしており、本構想においても上記を踏まえたうえで事業の可能性を検討する。
<p>②処理対象ごみ・計画ごみ質の整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●次期廃棄物処理施設に搬入される処理対象ごみ（不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ・可燃ごみ）と計画ごみ質について整理する。
<p>③施設規模の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●富津市一般廃棄物処理基本計画で策定する将来ごみ量の推計に基づき施設規模の検討を行う。 ●次期廃棄物処理施設の早期竣工を目標に、処理対象ごみの排出量を整理する。 ●年間稼働日数や稼働時間等を考慮して適正な施設規模を算定する。

第 2 章 処理方式の検討

<p>①採用可能な処理の方式抽出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一般廃棄物処理施設における、最新の技術動向をとりまとめ、本市のごみの特徴、ごみの性状等検証した上で整理する。
<p>②新施設の処理技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物処理過程における破袋、破碎、選別といった処理技術について、主たる設備の概要をまとめる。

第3章 整備候補地の検討

①建設予定地の立地条件	●建設予定地としている現状の敷地状況、周辺状況や災害想定（地震、津波、洪水、高潮による浸水等）について、既存資料を用いて整理する。
②建設予定地のユーティリティ条件	●電気、燃料、水道及び排水（工場、生活、雨水）の放流先等に係る整備状況について取りまとめるとともに、電気、水道に関しては施設への供給に障壁となる問題に対して調査確認を行う。
③建設予定地における都市計画区域の指定状況	●市街化区域、用途地区、防火・準防火地域、高度地区、建ぺい率、容積率等に関する指定状況を調査して取りまとめる。
④処理対象物等の搬出入条件	●搬出入に関する制約や条件（車両の大きさ等）などを整理する。
⑤施設整備に係る法規制条件	●開発行為に係る規制（廃棄物処理法、都市計画法、河川法、急傾斜地法、宅地造成等規制法等）や公害防止に係る法規制（大気汚染防止法、水質汚濁防止法、騒音規制法、騒音振動法、悪臭防止法等）のように次期施設整備にあたり必要となる法規制を整理する。
第4章 概算事業費及び財政計画	●施設建設工事における概算事業費を算定する。また、循環型社会形成推進交付金、起債、一般財源等の財源計画を検証する。
第5章 整備及び運営の方式の検討	●施設整備にあたり採用の可能性が考えられる事業方式（公設公営方式、DBO方式、PFI方式等）、事業期間の一般的な概要について、比較整理する。
第6章 処理促進に関する検討	●処理促進に関して、公害防止基準に関する検討を行い、生活環境影響調査につながる騒音・振動等の項目設定を行う。
第7章 事業スケジュールの検討	●次期廃棄物処理施設整備スケジュールの再検証及び許認可申請、各種調査、事業計画の策定、循環型社会形成推進地域計画等見直し、建設工事の工程等、整備スケジュールを作成する。